



しんじゅ

No. 36
2025年1月15日

発行所：社会福祉法人しんじゅ
発行人：猪坂 一彦

本部事務所
ホーリーツリー東部
たおじ分室
ホーリーツリー西部
ホーリー離宮
ホーリーハウス
ステーションしんじゅ
福祉の店「いたやど」
ホーリー須磨
ホーリーピンゴ
ホームページ

〒739-5350 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
〒821-1586 神戸市灘区備後町3-2-22
〒987-2532 神戸市北区有馬町有野字白原3689
〒739-5360 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
〒754-6760 神戸市須磨区須磨宮前町1-1-29
〒739-5390 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
〒731-3340 神戸市須磨区離宮前町1-1-29
〒733-2477 神戸市須磨区大黒町2-2-12
〒739-5359 神戸市須磨区須磨本町1-1-6
〒846-1812 神戸市灘区備後町3-2-22
http://www.shinju.or.jp

社会福祉法人「しんじゅ」の理念

1. 愛情をもってふれあい、共生の中で人間性豊かな人生を築こう
2. 安全で、安心して生活できる場を実現しよう
3. 自由で尊厳ある人生を全うしよう

昨年11月に亡くなった谷川俊太郎の詩「みみをすます」の一節「ひとつのおとに、ひとつのこえに、もうひとつのおとに、もうひとつのこえに、みみをふさぐこえに、ならないように、このひらがなばかりの詩は、対話やコミュニケーションについて淡々と語りながらも強いメッセージになっています。声の大きな人の語勢に押されて自分の意見が言えなかつたり、引つ込めたりしたことは誰にでもあることでしょう。声の大きな人はもう一つの声に耳を塞ぐことにならないう心掛けなければなりません。だけど聴く方に語勢に押されない心構えが必要です。互いがその心構えをもって初めて対話が成り立つのではないのでしょうか。

しんじゅの事業所では、言葉による対話があります。利用者と職員がレクリエーションや創作活動に、互いを思いやりながら和やかな時間を共有するように努めています。毎日会える職員との触れ合いに利用者の心の安らぎを覚え、交わす対話が楽しみに繋がっています。それでも感情の齟齬をきたすこともあるでしょう。でもそこには対話があるのです。声に出すことはできなくてもそこには無言の対話があるのです。

《秋深し隣は何をする人ぞ》。人恋しくはないけれど、これはわたしの会話のない家族への無言のお紹介。

お父さんのリーダーシップのもと、歩きスマホで静かに退席。見事にコミュニケーションはとれてるのです。でも興味のすべてはスマホの中。これは極端な例かもしれませんが。

私は先般、家族そろって外食レストランに行きました。ふと気が付くと、隣のテーブルに子ども連れの家族が4人。一言も発せず、皆がスマホに見入っています。私たちは賑やかにしていたのですが、隣は全く無表情にスマホに集中。料理がでてきてもスマホを見ながら無言で食事。目の前にいる家族との対話でさえスマホを利用するのかもしれない。食事が終わって、お父さんが「さ、行こか」と一言。この声を聞いて何故かほっとしました。話をするんや！

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

賀詞交歓はスマホが主流とか。スマホは新聞購読を駆逐し、辞書や百科事典も不要にしました。エンタメもぎつり詰まっています。そして本来のコミュニケーション機能においては、文字での対話。その計り知れない恩恵にどっぷり浸りながら、それでもちよつぱり楽しい（時には苦しい）語らいや対話が懐かしく思えるのです。

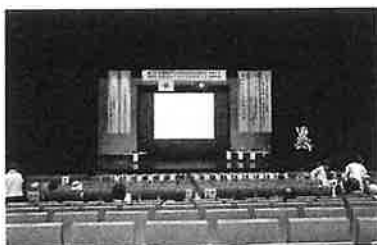


たおじ分室の職員・利用者の労作で可愛い「E」の置物ができました。ご近所にもお配りしました。

大会・セミナー

第57回 全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会 第58回 近畿肢体不自由児者福祉大会 奈良大会

- *会場 奈良100年会館
- *大会テーマ
住み慣れた地域で自分らしく生きる
～重層的支援体制
誰一人取り残さない社会をめざして～
当法人から14日に1名、15日に2名参加した。
- *大会決議文(案) 抜粋
一、「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会」すなわち、すべての国民が障害の有無にかかわらず、お互いの人格と個性を尊重し合い、理解しながらともに生きていける社会を実現すること
一、医療的ケアの必要な人や重複障害のある人に対応できるグループホーム設置を進捗させる体制を国の制度で整えること
以上を含め、8個条



令和6年度社会福祉情勢セミナー

「地域社会福祉の政策化」の時代における 社会福祉法人・社協の役割

- *講師 松端 克文教授（武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科）
- *概要
・昭和・大家族構成から ⇒ 令和・核家族化並びに未婚・成人比率激増の弊害
・近隣（地域）での助け合いが期待できない 現代の環境下での地域福祉の重要性
・近隣関係 < 福祉サービスの利用が現代のトレンドになりつつある
・生活条件が厳しい地域ほど福祉施設サービス提供が大きな意味をもつ
・かつての社会と個人の関係は今日では大きく様変わりしている
・日々会える見慣れた職員／利用者のコミュニケーションが利用者の安心／楽しみになっている
・相談支援は今後ますます重要視されていく可能性が高い
・ケアの重要性

感謝

寄付（日付順・敬称略）
令和6年8月、12月の間に次の方々から厚い寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。
小野 雅子 宮脇尚志 東郷賢治

◇お報◇ 太田すみ代

ホーリーツリー東部たおじ分室の責任者太田すみ代が、令和6年11月9日亡くなりました。

追悼の辞

理事長 猪坂 一彦

たおじ分室は、「神樹の会たおじ作業所」として平成10年4月6日に開所しました。名称はホーリーツリー東部たおじ分室と変わりましたが、太田すみ代さんは、発足当初からずっと施設運営に携わっていただきました。たおじ作業所設立時の広報、「いちごの甘い香りの漂う二部の地にあるたおじ作業所は地域の人の温かい協力・ご支援によって地域に根ざした笑顔の絶えない明るく楽しい作業活動を目指して頑張っています」。爾来26年、まさにこの文言を自ら実践されたのです。

その謙虚な物腰は、利用者さまはもとより、保護者さまからも絶大な信頼を得ていました。いつ出会うことも、そして誰にでも笑顔で接し、まして太田さんから否定的な言葉を聞いたことがありません。生来の気質でもあるのでしょうか、長い介護経験とも相俟って、柔らかに人に接することで数々の難事を乗り越えて頂きました。私は、太田さんと話し合った後はいつも清々しい気分になりました。たおじ分室26年を維持できた所以でしょう。

私と一緒に、新しい利用者の実習を受け入れるべく、神戸特別支援学校を訪問し、たおじ分室の明日への準備を語り合っていた矢先の急逝でした。安らかに眠ってください。そしてたおじ分室をずっと見守っていてください。



正面左の「柿の木」は秋にはたわに実を付けます。みんなで収穫し、ご近所や職員に配りました。太田さんは、もいだ実を地面に落とさず収穫する名人でした。

事業所だより 外出・行事など

ホーリーツリー東部 たおじ分室

篠原 英剛

8月、たおじ分室で2日間にわたり「スペシャル夏祭り」を開催しました。夏祭りにちなんだ4種のゲームでチャンピオンを決めたり、ご当地アイスを食べ比べたり、利用者様の笑顔がたくさん見られた夏祭りでした。

また、10月には「ミニスポーツ大会」も開催しました。走力よりも運が必要なジャンケン走のじぎくスポーツ大会の正式種目フライングディスクに、全員が真剣な表情で挑戦。

たおじ分室では、今年4月から来年の「干支飾り作り」に取り組んでいます。秋になり、ようやく30個の干支飾りが完成。年末に挨拶文も添えて、利用者様と一緒に地域の方へ配りに行く予定です。



夏祭り

干支飾り

ホーリーツリー東部

桃井 隆

昨年に引き続き11月11日から11月22日にかけて「秋の外出レクリエーション」を実施いたしました。今年は10周年を迎える神戸どうぶつ王国に利用者の皆さんと訪れました。11月とは思えない程、園内は暖かく汗ばむほどでした。

神戸どうぶつ王国は一般的な動物園とは異なり、珍しい動物の放し飼いをしており利用客が多く動物と触れ合うことができる人気の施設です。

私達が訪れた時も幼稚園や保育園から多くの子供たちが訪れていたり、高齢者施設や他の障がい者施設からも多くの人たちが訪れ大変賑わっていました。

参加された多くの利用者様も動物たちと触れ合ったり、フードコートでお昼ご飯を食べた後は土産を運んだりして楽しんでおられました。また、バードショーやドッグショーを見たりと、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

今年も多くのご利用者様にご参加いただきましたが、残念ながら今回不参加のご利用者様も次回には是非参加を頂き共に楽しいひと時を過ごしたいと思っております。



ハシビロコウ
じっとしていると思ってい
たがよく動きます

ホーリーツリー西部

岡本 豪

暑かった日常から、急に冷えはじめ紅葉がちらほらしてきました。夏に行ったシーワールドの話をしていたと思ったら、いつの間にか「ハロウィン」も過ぎ、クリスマスの準備という慌たしさです。

今年も西部では仮装をして4階本部へお菓子をもらいに行きました。

園芸では白菜とパセリ、前回小さかった大根を、今年は大きく育つといいなあと思いを込めて皆で毎日水やりをしました。クリスマス会では恒例の景品争奪戦を行う予定です、どんな景品が欲しいか皆でわいわい話合っているところです。



ハロウィン



秋の散策 (奥須磨公園)

ホーリー離宮

松園 雄蔵

ホーリー離宮は8月に西部より職員が配属され、10月に新しい利用者様が1名増えました。

そしてプログラムでは9月に秋祭り、10月に運動会と「ハロウィンパーティー」を開催しました。

企画、準備に対する話し合いから職員と利用者様が意見交換をして進めて行き、途中で発生した課題に対しても相互協力して活気に溢れ楽しく行うことが出来ました。

また、園芸療法では今年から看護師を中心に利用者のご家族や創作活動講師の東郷先生の助言やアドバイスやご協力をいただきながらピーマン、かぼちゃ、ニンジン、サツマイモなどを作り、水やりや草むしりを行いました。

11月には収穫した野菜でシチューを作りとても美味しくいただきました。

利用者様からはとてもやりがいや達成感を感じることが出来たとのお声をいただくことが出来ました。新しい職員と利用者様が加わることで新しい風が入り、皆の笑顔がより続くよう過ぎて参ります。



ホーリーハウス

黒河 希世

8月14日、以前から「お肉が食べたい」との要望があり「豚のしゃぶしゃぶとおにぎりの夕食」になりました。

いつもはバックに入ったお弁当ですが、今日はお皿に沢山のお肉とたっぷり野菜。皆さんの目がキラキラ輝き、お箸が進みます。野菜のおかわりをする利用者さんもありました。おにぎりも好評で具は鮭にしました。「美味しい」と何度も言って下さり、笑顔もたくさん見せて頂き楽しい夕食の時間となりました。暑い日が続いていましたが、食欲旺盛で暑さを乗り越えられそうでした。



ステーションしんじゅ

木場 美子

11月に入り、やっと秋らしくなってきました。今年の夏は酷暑で、移動支援の外出では熱中症等心配でしたが皆さん何事もなく楽しむ事ができ良かったです。外出先については、美味しい物を食べたい

方、スポーツ観戦に行きたい方、乗り物に乗りたいた方さまざまですが、以前ネコを飼っておられ毎年ネコのカレンダーをお部屋に飾っている利用者様に「猫カフェ」の提案をさせて頂き、行ってきました！ハウスで寝ている子、かまってほしくて鳴いている子、膝の上や椅子の上で寝ている子、とても穏やかな空間で長時間、「可愛い、可愛い」と撫でていた場面や、その後も「可愛かった。」と心に残っている様子を見て、来て良かったと心から思いました。

今回猫カフェを探すにあたり、バリアフリーは多いようでまだまだと実感し、これからは難しい状況が出てくるかもしれませんが可能な限り楽しんで頂けるよう頑張っていきます。



職員紹介

本部 田中 伸明
(令和6年6月1日入職)

学生時代には様々な種類のアルバイトをし、卒業後化学系メーカーの営業職で社会人デビュー致しました。

若い頃から色々な方々とお話をさせて頂くことが好きでしたので、販売ノルマがついて回る営業職は、ある意味大変ではありましたが、自分に向いている仕事と思い、転職の際は営業/販売に特化して参りました。

そんな中、今まで経験したことがなかった事務職に、一度挑戦してみたいと思っていた矢先、社会福祉法人しんじゅとのご縁があって参職し、本日に至っております。

気が付けば早や半年が経過しましたが、営業マンであったため、本部の仕事は、事務系的には独特なビジネススタイルになっているかと思えます。

何かございましたら何なりとお声がけください。

利用者様、職員のかたがたとのコミュニケーションの機会を増やして行き、社会福祉法人しんじゅの職員としてお役に立てるよう精進してゆきたいと思っております。

編集後記

盟友太田すみ代職員への哀悼の号とします。

また、今号では法人職員参加の大会・セミナーを特集しました。

年2回の発行です。季節感もまだありますがご容赦下さい。

昨年末の感染症の蔓延に慎重に対処しながらの越年になりました。

(編集一同)

展覧会出展

HUG+展2024 (第8回こうべ障害者芸術フェスタ)



場所：原田の森ギャラリー
日時：令和6年9月14日
～9月21日

横山 哲也さん
ぼくの「あいうえお」ボード



中嶋 英善さん 「六甲山」



小宮山 綾乃さん 「海月」

絵画。書道・切絵 それぞれ力作、大作です。みんなホーリーツリー西部の仲間です。